



# 琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	プロフェッサー・オブ・ザ・イヤーを受賞して: 「うちなーぐちあしび」について
Author(s)	島袋, 盛世
Citation	琉球大学大学教育センター報 = University Education Center Bulltein(20): 118-121
Issue Date	2017-12
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/40975">http://hdl.handle.net/20.500.12000/40975</a>
Rights	

プロフェッサー・オブ・ザ・イヤーを受賞して  
— 「うちなーぐちあしび」について —

法文学部 島袋 盛世

### はじめに

学期の始め、講義内容等について説明をする際、「うちなーぐちあしび」という講義名の意味が理解できているかどうか質問してみると、ほとんどの学生は「うちなー」は「沖縄」、「あしび」は「遊び」という意味であることは理解しているようである。「あしびなー」や「もーあしび」などの表現を普段見聞きする機会があるからであろうか。さらに、学生に受講している理由を聞いてみると、学生の中には「うちなーぐち」を使って「遊ぶ」内容の授業だと思い、「うちなーぐちで遊びたい」「面白そうだから登録した」「簡単に単位がとれそうだから」という学生もいる。学生があげる受講の理由は様々で、非常に興味深いものも多々ある。後ほどもう少し詳しく紹介したい。

「うちなーぐちあしび」の「あしび」は「楽しみながら学ぶ」という程度の意味と理解してもらえたらと思う。言うまでもないが、大学の正式な講義なので、中間試験や最終プレゼンテーションがあり、学生はそれぞれにおいて評価を受けることになる。しかし、学びたいことを楽しみながら学ぶことができれば、試験やプレゼンテーションはそれほど苦にはならないのでは、と自分の経験をもとに自問自答している。試験は自分の現段階での理解度を確認する術と捉え、学期末のペアで行うプレゼンテーションは楽しみながら学んだ知識や技能を披露する待ち遠しい場となればと願っている。学期末のオリジナル会話の発表会はもちろん「緊張」も伴うが、「微笑み」や「笑い」がそれ以上に場を盛り上げ、充実感がある。約4カ月の講義ではあるが、受講生はかなり成長する。予想以上の力をつけていると実感するのは、全てうちなーぐちで行われる発表をきいて、「へー、そうなんだ」などとうなずいたり、笑いが起こる時である。「内容が理解できている！」と思わず声を大にして叫びたい瞬間である。

以下に、「うちなーぐちあしび」の授業内容、教科書や教材、工夫及び改善点、今後の課題などについて紹介したいと思う。

### 授業内容について

この講義はうちなーぐち会話の「初級コース」として毎年、後期学期に開講している。開講している主な目的は学生にうちなーぐちに関する基礎知識（発音、文構造、表現など）および、基本的な日常会話を学ぶ機会を提供することである。受講生はこれらの機会を活用し、シラバスに掲げている講義目標「うちなーぐちのしくみの基礎をある程度知ることにより、単語さえ与えられれば、うちなーぐちで日常的な会話表現ができる技能を修得する」を達成する。

授業では文法解説は最小限にし、会話を中心に教えている。学生はすぐ使える基本的な表現（句や文）をまるごと学ぶ。この講義は沖縄語普及協会講師である稲嶺千恵氏の協力も得ながら、教えており、学

生は実際に母語話者の‘生の’うちなーぐちを聞いて、語彙の発音やイントネーションを確認しながら学ぶ。しかし、週1回の授業で会話を練習し学ぶことは明らかに時間が不十分である。そのため、講義外でも練習をするよう促している。

授業において行っている主な活動としては、ペアでの会話練習や語彙表の書き込み作業がある（以下で詳しく説明する）。教科書の各章には複数の場面設定があり、場面ごとに会話がある。それらの会話ごとに発音や会話練習、そして文法にも言及しながら語彙表の作成を行う。音の融合や文法に関する練習問題も必要に応じてプリントを用意して行う。また、上で既に述べたが、学期末に受講生を2人ずつ、または3人のグループに分け、それぞれのオリジナルの会話を作成し、発表をする。発表の様子は動画撮影し、本学のWebClassに掲載しており、受講生は自分の発音や表現などを確認することができる。

ことばを学ぶ際には常にそのことばが使われている文化背景の理解が不可欠になる。うちなーぐちを学ぶ際にも同様であり、講義では沖縄文化の紹介も行っている。たとえば、学期の後半、旧暦の12月8日に行われる沖縄の行事「むーちー」を稲嶺氏がうちなーぐち紙芝居で紹介し、「むーちーびいさ」という表現も同時に学ぶ。紙芝居も動画撮影し、WebClassに掲載しているので、何度でも閲覧が可能である。

## 教科書について

市販の教科書をいくつか使ってみたが、初級レベルの授業では使いづらいという事実が実感としてあった。そのため、外国語能力の参照基準であるCEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment) の初歩レベルの内容を基に「うちなーぐちあしび」で利用できる教科書の作成を試みた。CEFRに精通しているフランク・デルバール先生（フランス語教育）、稲嶺氏や兼本円先生含むうちなーぐち母語話者数名の協力を得て実現が可能となった。特に、デルバール先生には各章の原稿作成に尽力していただき大変感謝している。

教科書の特徴は“伝統的な（従来の）”解説詰めの高いイメージのものを避け、イラストを多く入れ、親しみやすくした。会話は日常生活によく見られる場面を使った。日常ほとんど使われない語彙や表現は避けた。この教科書も本学のWebClassに掲載し、受講生は各々ダウンロードし、授業で使う。印刷し持参する学生もいるが、タブレットやパソコンにダウンロードして、持参する学生もあり、様々な使い方がある。この教科書は最終盤ではなく、現在使いながら、学ぶ側の受講生の意見も参照し、修正及び加筆を行っている。

## 工夫及び改善点について

教科書における新出語彙や表現などは各章の最終ページに語彙表を提供していたが、あまり活用されている様子はなかった。事実、語彙表の存在すら知らない学生もいた。そのため、「出来上がった語彙表」を提供するのではなく、語彙や語句の意味の欄が空欄になっている表を与え、受講生自身で表中の空欄に意味を書き入れてもらうことにした。以前より時間はかかるが、発音しながら自分で意味を書き入れる作業をするため、語彙や語句が記憶に残る可能性が高くなると期待している。

以下に教科書から抜粋した会話文と語彙表の例を上げて説明する。まず、(1)には「写真ぬ っちょー たーやが？」と題がついている会話、(2)にはこの会話文に出てくる語句をまとめた語彙表（簡略版）の例をあげる（第4章からの抜粋、イラストは省略）。会話は健太と聡が家族の写真を見て話している場面である。会話文の日本語訳は提供しておらず、語彙表の備考欄に記載されている語彙の基本形と会話の文脈を基に、意味を推測するという作業をする。

(1) 写真ぬ っちょー たーやが？

健太：	くれー いったー やーにんじゅ どう やん なー？
聡：	いー。うれー わったー やーにんじゅ ぬ 写真やさ。
健太：	うぬ っちょー たー やが？
聡：	わん うや やさ。 うや ぬ とうない や わん ちょーでー てー。
健太：	わったー、いんぐわー ちかなとーんどー。 チョコ んでい いーん。 写真 みしら やー。 うり やさ。
聡：	いっぺー うじらーさん やー！

たとえば、「っちょー」の備考欄に「っぢゅ (人)」と語が上げられているので、学生は「や (は)」が融合した形であることに気づく（この時点でこの音の融合についての学習は既に終わっている）。つまり、「っちょー」の意味は「人は」となる。「ちかなとーん」も「ちかないん (飼う)」がわかれば「(犬を) 飼っている」が推測でき、「うじらーさん やー！」も文脈から「かわいいねー」などの表現だと察することが可能である。必ずしも受講生全員が同じ意味を書き入れるとは限らないが、‘的外れ’や‘ユニーク’な意味を書き入れてたとしても、それがなんらかの形で話題になる。その場合、学生の記憶に残ることにつながるため、結果的には少なからず学習には効果があるのではないかと考える。このような作業を繰り返して学んで行く。空欄の語彙表のプリントは全て WebClass に掲載しており、学生は何度でもダウンロードし学習に利用できるが、「出来上がった完成版語彙表」は提供していない。

(2) 語彙表（簡略版）

表現	意味	備考
っちょー		っぢゅ (人)
ちかなとーん		ちかないん (飼う)
んでい いーん		・んでい (~と) ・いーん (言う)
うじらーさん やー		

## 今後の課題について

今後考えていかなければならない課題は多い。今回は主な課題を2つあげる。1つ目は、講義で使用している教科書の音源が必要であること。教科書に掲載されている会話や表現など、講義以外で何度も聞いて練習するには音声データが欠かせない。WebClassなどに音源を掲載し、受講生が自由にダウンロードし聞けるよう学習環境を整える必要がある。

もう1つの課題は、うちな一ぐちを継続して学ぶ環境を整えることである。この初級レベルを終えて、さらに学びたいという学生のための講義も開講する必要がある。言語の学習は継続して行うことが重要である。少なくとも「うちな一ぐちあしび 中級」のような形で次のレベルの講義を提供する必要があると考える。初級レベルだけの提供は提供する側の言語教育に対する無責任な態度を指摘されても仕方がないと思う。

## おわりに

講義の初日にうちな一ぐちを含むしまくとぅばに関して簡単なアンケート調査を行っている。「しまくとぅばを学んだことがあるか」「しまくとぅばが使える（理解できる、話せる）か」「使えたとすれば、どの程度か」など10程度の質問である。回答は学生のしまくとぅばに対する意識を知る上で非常に参考になる。そのなかでも、私が特に興味をもって読むのは「この講義を受講する理由を教えてください。」という問いに対しての学生の回答である。幾つか紹介したいと思う。

まず紹介したいのは、卒業後就職した際に必要だと考えている学生の回答。例えば、「将来は福祉関係に就職するため、お年寄りと関わる機会が多くなるので必要と感じる」「病院での研修で年配の方々の話すことばが分からなく困ったから」「将来教員になるので、沖縄の文化やことばを子ども達に伝えていきたい」などと回答する学生は毎年数名いる。また、県外での就職を希望する学生からの回答には「県外へ行く前に自分の生まれ育った地元のことばを学びたい」という声や、これと関連して、「県外の友達にうちな一ぐちのことを聞かれても答えられないから学びたい」など、自文化について学びたいという回答も多数ある。

さらに、「うちな一ぐちを使う祖父母の会話を少しでも理解できるようになりたいから」や「うちな一ぐちを学ぶことによって、昔の考え方や知識も共に理解することができるようになると思うから」「話題も増えて、もっとボキャブラリーも増えそう」「コミュニケーションの幅が広がるから」などコミュニケーションや相互理解のため、という回答も興味深い。

県外出身の学生や留学生からの回答で多いのは「友達が使う独特の表現や、広告などで目にするうちな一ぐちについて学びたい」や「沖縄の大学で学んでいるので、沖縄のことばについても学びたい」などの声がある。

また、「グローバルな英語とローカルなしまくとぅばが話せるとかっこいい」「芸能人の～のように話せるとかっこいい」など「かっこいい」が理由になっている回答も多く、非常に興味深く感じると同時にうちな一ぐち（しまくとぅば）の過去、現在、未来の状況を色々と考えさせられる。理由はどうあれ、うちな一ぐち（しまくとぅば）を学んで日常生活でどんどん会話をして欲しいと願っている。